



●●● 5周年記念号 ●●●

OCFC NEWS

2005年4月25日号

Vol. 22

大川こども & 内科クリニック

OCFC開院5周年

OCFC は今年開院して5周年を迎えました。登録された患者さんは15,000名を越え、受診された患者さんは延べ170,625名、 昨年の受診者は45,624名 でした。多くの患者さんにご利用いただきありがとうございます。これからも皆様の信頼を得て、利用しやすいクリニックを作り上げたいと考えております。お気づきの点がございましたらお知らせください。皆様に育てていただくクリニックです。

4月改正の医療システム

- 1) 大田区では小学校3年生まで通院での医療費は全額補助されます。該当の患者さんの医療費は当院発行の領収書を持って、大田区役所子育て支援課乳幼児係または地域行政センター地域福祉課福祉調整係りまでご請求ください。港区・台東区は中学生まで、品川区では小学生全学年の医療費が補助されます。
- 2) 個人情報の保護法の施行に伴い、DPT、DT、麻疹、風疹、日本脳炎の予防接種では予診票以外に同意書が必要になりました。同意書に署名がない場合は自費扱いとなります。同意書はOCFC でご用意いたします。
- 3) 改正された結核予防法の施行によりBCG接種は6ヶ月未満の乳児にツベルクリン反応を行わずに接種することになりました。6ヶ月以降でBCG接種を希望される方はOCFC にご相談ください。

診療体制の変更

4月より月曜日の診療体制が変わります。午後2時より4時までが予防接種・乳児健診・アレルギー・慢性疾患の診療枠となります。一般診療は4時より6時までとなります。これで月曜日から金曜日までは同じ診療体制で診療が行われ、慣れていただければわかりやすくなると思います。変更当初はまごつかれると思いますが、4月・5月は奥の待合室(観察室)をつかって、一般診療も平行して行います。一般診療の予約はできません。6月以降は他の曜日と同様隔離室での診察となります。月曜午前中の診療は2診(医師2名で診察)

で行ってきましたが、4月より9月までは院長が担当して、1診となります。

休日診療 GW も毎日診療します
今年度も東京医科歯科大学小児科より医師を派遣してもらい、8月の日曜日を除き全休日午前9時より12時まで診療いたします。代診は院長の学会出席時等で月2回程度です。その他の日は院長が行います。また今年度から救急診療の予約もできます。予防接種を休日に希望される方もご予約ください。

※5月29日の休日診療は中止いたします。

OCFC INFORMATION

感染症 だより

遅れて流行したが大流行となったインフルエンザ

今年のインフルエンザは12月 中ほとんど発症はなくA型 が4名 でした。本格的な発症は1月後半からで、1月はA, B同数 の49名、2月 はA型126症例、 B型328症例 とB型優位でした。このまま終焉するかと思った3月にA型 は増加して165名、 B型 は81名でした。合計A型344症例、 B型451症例 を診断しました。使用したインフルエンザ迅速キットは1581キットでした。迅速診断は発症から12時間以上た ないと正確ではありませんし、90%以上 の診断率は24時間後からです。OCFC ではこのご説明をして、できるだけ無用な検査を省きました。今年のインフルエンザの症状はとても軽く、したがって症状からの推定が困難で迅速診断をしないと臨診断できないことが多いようです。このことが検査数の増加に結びついたようです。この症状が軽いことが裏目に出たらしく、成人の方では無理して働いて結局感染増につながった面も否定できないようです。過去10年間 では3番目の流行ですが、21世紀 にはいって最大の流行となったわけです。インフルエンザB型 は一部(約10% ぐらい)で抗インフルエンザ剤であるタミフルの効きがわるく、2~3 日解熱後再び発熱する症例がありました。半数以上の方はタミフルを終了すると解熱して、耐性ウイルスの関与が考えられましたが、他の症例ではマイコプラズマや細菌感染との混合感染が疑われマクロライド系の抗生剤が必要となりました。下痢症はノロウイルスからロタウイルスへ

冬の感染性胃腸炎は12月 385症例、 1月 235症例 でこの時期の原因ウイルスはノロウイルスのようでした。一部は生カキからの感染もあったようです。老人の介護施設では不幸な転帰となった方もいらっしゃいました。ノロウイルスは1日前後の激しい嘔吐と3~6 日の下痢が症状ですが、2月 からはやったのはロタウイルスでした。これは2~3 日だらだら続く嘔吐・嘔気と7~10 日続く下痢が特徴です。下痢は水様便、白色便、クリーム色の便です。ロタウイルスは8種類以上ありますから一度きりの発症ではではありません。1歳前後では脱水になりやすいので注意が必要です。一部の人はイチゴジャム状の便があり、腸重積を合併することもあります。2月 は136名、 3月 は175名 でした。ロタウイルスは便を持参されれば(オムツでもよい)迅速検査で確定できます。

その他の感染症

流行性耳下腺炎はコンスタントに保育園、幼稚園で小流行を繰り返し、12月 から3月 で105名、水痘も同様で204名診断 しています。ウイルス性疾患は接触後48時間以内に予防接種を防げるといわれていますが、それ以降でも症状の軽減効果があることがわかってきました。OCFC では患者さんに接触後48時間以上過ぎていても、希望される方には接種いたします。

アデノウイルスも静かに流行しています。1月 7症例、2月 34症例、3月 17症例 でした。5 日前後の続く高熱と咽頭・扁桃に白苔ができるのが特徴です。

12月 にはRS ウイルスがやはり乳児で呼吸困難を伴う頑固な咳が特徴です。

うさぎのママ だより

OCFC病児保育室利用者年間1000名 を超える。

2004年度 のOCFC病児保育室 「うさぎのママ」のご利用は開室日数237 日、ご利用者数1074名 です。月のご利用者数は1月 の55名 から11月 の118名 で、1日のご利用者は平均で4.5名 でした。1歳から2歳未満 の方のご利用が一番多く474名、3歳未満が188名、1歳未満 は174名 でした。疾患は上気道炎が344名、気管支炎・肺炎は163名、胃腸炎87名、隔離を必要とする水痘・インフルエンザ等感染性疾患266名 でした。

10月 より開始しましたお弁当+飲み物あるいはミルク+離乳食サービスは好評で約半数の方にご利用いただきました。費用は500円 です。予約時にお申し込みください。今年度は保育の状況がわかるインターネットモニターサービスを開始する予定です。次号ではその詳細をお知らせします。

OCFC ホームページ、メルマガ好評発信中

昨年4月 にOCFCHP開設以来25,000名 を超える人々に来ていただきました。トップページにはクリニックの診療予定、じっくり外来や神経外来、心理発達外来の予定、花粉症やインフルエンザの最新情報を掲載しております。また7月 より週刊OCFC メールマガジンを発行しております。こちらのほうも今年4月 で37号 を発行していて、購読者は600名 を越えております。

購読申し込みはホームページから URL: <http://www.ocfc.jp> です。是非アクセスしてください。

病診連携

関連施設への入院紹介は20名 で12月 9名、1月2名、2月 5名、3月 4名 でした。東邦大学小児科には比較的重症なEB ウイルス感染症、感染症に起因する多形滲出性紅斑、東京医科歯科大学小児科には夜尿を主訴として来院された甲状腺機能亢進症など重い病気もありました。川崎病はこの病気では日本で一番の権威である日赤医療センターに紹介しました。そのほか肺炎・不明熱では都立荏原病院、蒲田総合病院、大森日赤の各小児科に紹介しております。内科では東邦大学呼吸器科に間質性肺炎、池上総合病院には貧血（後に多発性骨髄腫と診断）東京通信病院には重症貧血を紹介しております。外科では医科歯科大学消化器外科に胆石症、日赤医療センター外科に腹部腫瘍、などを紹介いたしました。外来紹介は65名 です。東京医科歯科大学、東邦大学の小児科、小児外科、及び近隣の耳鼻科、眼科、皮膚科にご紹介しております。詳しくはホームページ診察室からを参考にしてください。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

冬は学会活動は一休みでした。院長が世話人をしている小児特発性血小板減少性紫斑病治療委員会の総会にスイスから来賓があるとのことで、その準備に3月12日鎌倉に出張しました。4月にその研究会が行われます。保護者の方を対象にしたいくつかの雑誌の監修をしました。機会があればご覧になってください。

ひよこクラブ2月号「赤ちゃんがかかる病気ランキング」

リクルート発行赤すぐ3~4月号「デリケートな赤ちゃんの体、じょうずに清潔をキープしたい」

ぴあ発行子供とおでかけ2月17日号

「お出かけ先の家族のピンチ こうして防ごう、対処しよう」

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約して下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
火	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
水	小児科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科(富沢)
	内科・循環器(上田)	1・3水 じっくり外来(院長)	
木	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
金	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
土	小児科・内科(院長)	乳健・予接(1時~2時)	小児科(荒木:2時~3時)
	1・3・5土 小児科・循環器(佐々木)	1土 神経発達(荒木1時~3時)	
		じっくり外来(院長:不定期)	
2・4土 アレルギー(大柴)	栄養相談(関)(乳幼児、生活習慣病)		
日曜・祝日	9時~12時 休 日診療・予接(院長・荒木・佐々木)		

乳健:乳児健診、予接:予防接種、ア:アレルギー疾患 慢:慢性疾患 栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
●毎週日曜日午前予防接種しております(要予約) ●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	日本脳炎	28#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	その他	29#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#		
隔離感染症	14#	取消	30#	水痘	26#		
予防接種	15#	3種混合	21#	おたふくかぜ	27#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤ってれば1# で行って下さい。

院内設備・機器

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)(3台)オゾン空気清浄・防臭装置(2台)電解水発生装置、消毒用専用スライザー
検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図モニター、チンパノメトリー、アトムネオテーブル

患者さん 質問箱



Q

私の息子は1歳ですが風邪をひくと必ず中耳炎になります。そのつど耳鼻科にいったり抗生剤をもらい、2週間以上おくすりをもらいます。中耳炎でも薬をほとんど出さない耳鼻科の先生もいらっしゃるようです。どう判断していいかわかりません。教えてください。

(耳が痛いといって泣きじゃくる子供を前に途方にくれる母)

A

鼻と耳は耳管で繋がっています。この耳管は乳幼児ではより水平に近く、また短く、太いので鼻からの分泌物が中耳へ移行しやすく、したがってウイルスや細菌も移動して中耳炎を起こしやすくなっています。中耳炎は一度かかると月齢が低いほど反復しやすいようです。また2歳までは感染から体を守る抗体の産生が悪いのも中耳炎にかかりやすい原因のひとつです。毎月のように急性中耳炎を発症している人の中には抗体が作れない無ガンマグロブリン血症の方も含まれます。このような易感染性の疾患(すぐに感染しやすい体質)の診断はOCFCでできます。じっくり外来を受診してください。

中耳炎の原因にはウイルス(インフルエンザ、パラインフルエンザ、RS)、や細菌(肺炎球菌、インフルエンザ桿菌)があります。欧米では肺炎球菌ワクチンで予防する国が多いようですが、どうも中耳炎には効果がないようです。

中耳炎の治療は耳鼻科医により差があるようですが、最近米国、欧州各国で一定の決まり(ガイドライン)ができてきています。日本でも外来小児科を中心に作られてきています。これは従来の治療が抗生剤の過剰投与の可能性を考えての反省から出来上がってきています。ここではそれらのガイドラインの概略を紹介します。

中耳炎には急性中耳炎と滲出性中耳炎(耳腔に水がたまっているが、急性炎症のないもの)にわけられますが、急性中耳炎とはっきりしている症例以外は無治療で経過をみます。急性中耳炎でも無治療と抗生剤投与、鼓膜切開とで差は無いそうです。重症の例では初期に短期間5日程度の使用が効果的で、この期間を超えて長期に内服しても効果は無いようです。

重症例以外では原則として2歳以上3日間、2歳未満2日間は鎮痛剤のみで経過をみます。症状の改善が無ければ抗生剤の投与が選択肢になります。重症例とは3歳未満で、39℃以上の発熱、白血球数が15,000以上のとき、全身状態が悪いときなどです。この場合は抗生剤の投与が必要です。

抗生剤はAMPC、5日間で原則ですが効果が無ければ静脈注射が必要となる場合もできます。症状が無くなれば鼓膜が多少赤くとも抗生剤の長期投与は必要ないようです。

耳鼻科医によってはマクロライド系の抗生剤を長期に処方する場合がありますが、これは抗菌剤としての使用よりは消炎作用を目的とするものです。この場合の使用量は半分量となり1日1回内服となります。

ここに述べたお話は中耳炎の一般論です。鼓膜所見を正確に取れるのは耳鼻科医です。耳鼻科の先生から抗生剤や鼓膜切開の必要性を説明されたら、よく聞いて、納得されたらその方針に従いましょう。

(OCFC院長)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科 (併設 病児保育室 うさぎのママ)

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間月～金 午前 8:30～12:00 午後 2:00～6:00

土 午前8:30～12:00 午後 1:00～3:00

(日曜・祝日休診) 駐車場 7台あり

予約
専用

03-3758-0099

代表
番号

03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

うさぎのママ お問い合わせ

直通
電話

03-3758-0066

E-mail: usagimama@ocfc.jp

案内図



東急多摩川線矢口渡駅前